

『一休.com』がオンライン旅行予約サイトで初めて  
鹿児島県「天空の森」「忘れの里 雅叙苑」の予約受付を開始  
～厳選された上質な宿を集めた「一休 Plus+」にて取り扱い～

高級ホテル・旅館の予約サイト『一休.com』(<https://www.ikyuu.com/>)を運営する株式会社一休(本社:東京都港区、代表取締役社長:榊 淳、以下一休)は、「天空の森(鹿児島県/南さきりしま)」「忘れの里 雅叙苑(鹿児島県/妙見温泉)」の2施設の予約受付を開始したことをお知らせいたします。

『一休.com』 <https://www.ikyuu.com/>

■ 「一休.com」がオンライン旅行予約サイトで唯一、予約取り扱いを開始

「天空の森」「忘れの里 雅叙苑」の2施設は、これまでオンライン旅行予約サイトでのお取り扱いがなく、「一休.com」が初めて開始いたします。

また、「一休.com」でお取り扱いさせていただいている施設の中で特に上質であり、オンライン旅行予約サイトでは「一休.com」でしかご予約いただけない施設を「一休Plus+」(※)としております。今回お取り扱いを開始する2施設も「一休Plus+」としてご紹介させていただいております。

※一休Plus+…いっきゅうがらす。「一休.com」で予約可能な宿の中でも特に上質かつ、インターネット専業宿泊予約サイトでは「一休.com」のみご予約可能な宿。

■ 施設のご紹介

・天空の森(鹿児島県/南さきりしま) <https://www.ikyuu.com/00002559/>



2018年7月9日(月)より予約受付開始。東京ドーム13個分の広さの山に、3棟の宿泊棟ヴィラが点在。いずれも絶景の眺望が楽しめ、天然温泉の源泉かけ流しの露天風呂で寛ぐ、「ルレ・エ・シャトー」加盟の究極のリゾートです。

敷地内の自家菜園や段々畑で作られた野菜を用いた食事は、大地の恵みを満喫。五感を解き放つ「大宇宙(おおぞら)の無人島」で、エモーショナルな瞬間を感じていただけます。

・忘れの里 雅叙苑(鹿児島県/妙見温泉) <https://www.ikyuu.com/00002554/>



2018年6月5日(火)より予約受付開始。青々と茂った霧島の自然に溶けこむように佇む「ルレ・エ・シャトー」加盟宿。茅葺屋根の古民家を移築した10室の離れのうち、8室に100%源泉かけ流しの客室温泉風呂が備わります。自家菜園で作られた野菜で繊細に調理された料理と豊かなロケーションを通じ、昔ながらの日本の原風景を思い起こす心安らぐ空間です。

※ご参考: 「天空の森」「忘れの里 雅叙苑」オーナー 田島健夫氏インタビュー

『観光の常識を変えた! 南九州の原風景を守る宿』 <https://www.ikyuu.com/concierge/21455>

「一休.com」が運営するトラベルWEBマガジン「一休コンシェルジュ」(<https://www.ikyuu.com/concierge/>)にて掲載。

※施設および宿泊プランなどの内容詳細は、「一休.com」のサイト上にてご確認ください。

【「一休.com」の特徴】

一休.comについて

- ・全ての宿泊施設で事前に厳しい審査を行い、掲載施設を厳選。高級・上質な体験を求める一休会員に安心してご利用いただけるサイトを目指して運営
- ・一休会員は「一休.com」サイト上で、紹介されているホテル・旅館・レストランの空室・空席検索および予約が 24 時間可能
- ・「一休.com」「一休.comビジネス」「一休.comキラリト」「一休.comパッケージレンタル」「一休.com海外」「一休.comレストラン」「一休.comギフト」「一休.comスパ」のサイトを共通IDでご利用可能

ユーザーの属性

- ・会員数700万人のうち、約26%が年収1,000万円以上
- ・利用者の男女比は男性55%、女性45%。平均年齢は男性45歳、女性42歳

一休 Plus+ (いっきゅうぷらす)とは

URL: <https://www.ikyuu.com/plus/>

- ・「一休.com」がご紹介する高級ホテル・高級旅館の中から厳選し、さらに上質な体験をお約束する日本最高位の特別な宿
- ・インターネット専業宿泊予約サイトの中で、「一休.com」でのみご予約可能な高級ホテル・高級旅館をラインナップしたサービス

<会社概要>

株式会社 一休



代表: 榎淳

本社所在地: 東京都港区赤坂 3-3-3 住友生命赤坂ビル 6F

設立: 1998 年 7 月

会社 HP: <https://www.ikyuu.co.jp/>

インターネットに新しい風を。世の中に大きなインパクトを。

そして、人々の心にうるおいを。

株式会社一休は、現状に満足することなく、常に社会に役立つ新しい価値を創造し続けます。